

(1pから続く)  
 普段の町をあてもなくぶらぶら歩き。面白いものを発見したり、出会ったり。  
 そんな観風(かんふう)の旅、ちん電で行く町遊びを4号で紹介しましたっけ。



①気合も色も薄れて来たか? やるぞ看板  
 ②聖天さんへの登山? 道

**そもそも、なんでこんなこと始まったの?**  
 猪池先生(以下猪池): そもそもの出会いはどっぷり昭和町の実行委員会で出会ったのかな。  
 聞き手: 東天下茶屋のあたりきしゃりき堂さん(4pMAP1)からどっぷりを紹介されたんです。そのころもこのあたりは昔なつかしい路地があって、成金草があって(8p参照)、謎の気合看板(写真①)やアヤシー風景(写真②)を見つけて、面白がって……ついにチン電マップをつくっちゃったんです!

**昨年、学生さんとちん電まちあそびの旅を実施**  
 猪池: あれから何年、やっと堺版もできたんで、旅ルートを発見しようってことになった。  
 聞き手: で、いよいよ学生さんとちん電まちあそびの旅を実施。行き当たりばったりでも、町のみなさんは親切に説明してくれる。世話焼きというか、いちびりというか。  
 猪池: まず、てくてく切符をコインで割るところから「観風」モード。

**東天下茶屋から松虫では**  
 聞き手: 阿倍王子神社の「みのり市」では、おしゃれ

なマルシェには目もくれず。  
 猪池: 「八咫鳥(やたがらす) 輪投げ」に挑戦し、景品にレアなヤタガラスシールをゲット(写真③)。八咫鳥おみくじ可愛い(写真④)。あたしゃりき堂で店先の昭和のおもちゃの中からけん玉を見つけ、けん玉選手権が始



③八咫鳥輪投げ



④やたがらすこどもみくじ

まる(写真⑤)。ふと気がついたら、僕らの後ろは長蛇の列(驚)(笑)。  
 聞き手: はやし製菓本舗の「なにわことばせんべい」を焼いているところに遭遇できた(写真⑥)。



⑤あたりきしゃりき堂の昭和のおもちゃを満喫

**粉浜では**  
 猪池: 粉浜商店街ではから揚げ美味しかった。「こはマガ」の配布を手伝ったり。ところが、こともあろうにてくてく切符を落としたりやつがおった(怒)。  
 聞き手: 絶対みつからんと泣く泣く引き返したら商店街の



猪池先生と町歩きに同行した学生たち



⑥なにわことばせんべいの手焼きライブに遭遇



⑦粉浜商店街早々に引き上げじつと足元を見る

入り口に落ちてた。「粉浜商店街は楽しかったもつと見たかった」じつと足元を見る(写真⑦)。  
**安立では**  
 猪池: 安立ではカフェマムギさん(4pMAP2)でおしゃれなランチをいただく。僕は「なにわことばせんべい」包装紙の「なにわことば」を当てっこする「検定」に没頭。

**ようやく堺**  
 猪池: 大和川を超えて高須神社で降り、スピニングミル(5pMAP3)で映画上映会やって!びっくり。

聞き手: 内田家住宅を見学。御屋敷のすごい大きな昔の



⑧内田家住宅で昔の筆筒や堺のかつての商売の品々を見せていただく。



⑨堺のかつてのレンガ工場の跡。かなり大きい。

これからちん電乗り降りして町遊びしよう  
 聞き手: 最近では、恵美須町から歩いていけるっちゃいける笑「裏日本橋」にも出没。  
 猪池: まあ、ちん電沿線は一言ではいえない、けつたいな、アヤシー魅力満載。町の人はいちびり、世話焼きで親切。古き良き時代の物が残っていたり。これからは町歩き遊んでほっておいたら消えてしまう面白い風景を発掘して僕らの「文化財」に認定してしまおう。

5号の表紙を飾ったトモゾー。記事も説明もないとクレーム多数。なのに5号を持ち帰る女子も多数。トモゾーは堺の大小路の紙カフェにいるらしい。次々と企画(遊女企画、古墳、妖怪、いっちゃん早い秋祭り etc)を生み出す謎のイケメンの正体とは…? トモゾー自ら今語る!

謎の人物、松永友蔵(トモゾー)は「堺の遊廓企画」の際に生まれた。場所は紙 cafe。日本でも有数の古さを誇る「山之口商店街」のなかにひっそりとある。  
 紙 cafe(2012年 OPEN)は、「堺を盛り上げるため」に生まれたカフェ&雑貨屋。運営する情報サイト『つる・ど・堺』で集まった情報をアウトプットするための場所。そして今では人と人、店と店、場所と場所を繋ぐ役割を担っている。

さて、堺は教科書にも載るほど伝統ある文化の街。しかしマイイチ堺市民にその意識が薄いと思った紙 cafe 代表 松永友美は次々と堺をテーマにしたイベントを開催した。

堺にはどの時代のページを開いても興味深い文化や物語があるが、そのなかでも特に心引かれた「遊廓」を題材にした「堺の遊廓企画」は、毎日を賢明に生きる女性達とその日だけ遊女の姿に扮し、楽しい時間を過ごす、ただそれだけのイベントだ。テーマの軸は堺に実在した「乳守遊廓」。そこで当時繰り広げられたであろう遊女たちの物語に焦点を置いた。

堺の街で大いに繁盛していた商家の旦那衆は美と教養を兼ね備えた遊女達と、遊廓それぞれの「しきたり」に従い「遊び」を満喫していただろう。その遊びの中で生まれ、繁栄していった工芸技術や芸術があったに違いない、職人達は工房で腕を磨き、きつとその価値がわかる相手に渡っていた。

そんな遊廓文化が華開いた時代。良い意味で自由な粋人が闊歩していた街、堺。しかし、今の堺はあまりにかけ離れており、堺に暮らす地元民はかつての遊廓の存在を知らないという。

この企画は「遊廓を再開せよ」などという意味で立ち上げた訳ではない。ただその時代に、この場所で生きてきた女性達が忘れ去られるのが切なかっただけだ。彼女達の「鎮魂」を意味しているといつても過言では無い。

いざ始めてみると、そんな主催者の陰気な思惑はものともせず、遊女に扮した者同士が美しさを称え、歌い、笑い、時間の許す限り「楽しさ」を共有をしてきていた。



遊女  
ワイン会にて



謎のイケメンと謎の人物(?)  
イベントにて



開口神社にて  
和のトータルプロデュース: 音遊  
トンビコート: 河十興服店

「松永友蔵」は第二回目の『堺の遊廓企画』に生まれた偶然的な産物だった。もともと遊女着付け・ヘアメイクを担当してくれた和のコーディネーター『音遊』スタッフが開発した、男帯を使った帯ベルトを、松永がデニム着物と合わせて着てみたのがきっかけだ。  
 すると不思議なことに女性の視線が変わった。うっとりと思ったり見るとかと思ったら頬を染めて目をそらす遊女(に扮した参加者)達が現れた。女店主の松永友美が男役・松永友蔵になった瞬間だった。

そんなわけで『堺の遊廓企画』は“松永友蔵と絡める”というオプションがついた。そんなことが価値になるとは考えてもいなかったが女性達の反応を見るにつけ、納得せざるを得なかった。

それはそれで堺の広報に使えるかもしれないと、色々な場所に出没するようになった。この格好をしているだけで写真を撮られることが増えた。この姿が生まれた経緯も「堺の遊廓」から。堺に興味をもってくれるきっかけに繋がっていると信じる。

毎日懸命に働き、生きる女性達には、優しく肩を抱き、微笑みだけの存在が必要だったのかもしれない。これからは、堺以外でも出没する予定だ。ぜひ声をかけてほしい。

みんなのLdk (レンタルキッチン)  
 自然素材で建てる家 新築・リノベーション 大長ハウス株式会社  
<http://daichou-house.com/kitchen/>(※詳細はHPでご確認を)

株式会社インフィニティ  
 堺市堺区戎町西 1-1-1  
 三洋ビル 4F  
<http://www.kakakuinfinity.com/>

価格  
 Infinity

バサラ食堂  
 バサラ食堂  
 堺区宿院町東 4-1-2B1  
 宿院食堂ビル 47・47 内  
 11:00 ~ 16:00 (LO 15:00)

御陵前にある臨光寺には乳守明神社があり女性の守り神として信仰されている。歴史のかすかな名残を感じながら今は、怪しくも優雅で美しいトモゾーの世界に浸ってみようかしら……



臨江寺(5p MAP4) 乳守明神社

家具工房  
**大黒屋**  
 TEL 072-232-2812  
 堺市区市町東 1-2-21

ホテル 平安  
 〒406-0024 山梨県笛吹市石和町川中島 538  
 フリーダイヤル 0120-36-4989 担当: 治田長次